

鶴田町振興作物（アスパラガス）の

ス ス メ

— 鶴 田 町 —



○鶴田町振興作物とは？

鶴田町では、町農業生産力の向上と経営の安定を図るため、町が指定する作物（振興作物）の作付けを行う農業者に対し、補助金を交付し支援をおこなっています。

鶴田町の振興作物は、『収益性が高く、主力作物の支障とならない作物』であるアスパラガスで、これらの新規作付および規模拡大に対し、補助金を交付します。

①アスパラガス（株は5～6年の多年性）

【経営指標の目安】

- ・初期投資費用：47万円／10アール（1,500株植え）
- ・標準経営所得：経費差引後 16万円／10アール（所得率39%）
- ・標準労働時間：270時間（34日*）／10アール
*8時間で1日と換算した場合

○交付対象者の要件（すべて満たす必要があります）

- （1）鶴田町に住所を有する者であること
- （2）本人及び世帯員に町税等の滞納がないこと
- （3）補助金交付後においても肥培管理及び出荷を継続できる者であること

○補助金額について

区 分	内 容
①新規作付事業 （新規に作付を行うもの）	対象経費：初期投資費用 （種苗費、肥料農薬費、資材費） 補 助 率：4分の3（上限234,000円） 要 件：作付する面積が2アール以上
②規模拡大事業 （作付規模を拡大するもの）	対象経費：拡大に伴う投資費用（新規作付と同様） 補 助 率：2分の1（上限156,000円） 要 件：規模拡大分面積が2アール以上

○申請方法

希望される方は役場 産業課 農業振興班へ事前にご相談ください。

その後、申請書、経費を証明する領収書の写しを提出のうえ、現地確認を経て交付決定し、交付となります。

I アスパラガス

1 経営の特徴

- ・アスパラガスは定植1年目に株養成を行い、若茎を収穫できるのは定植2年目以降となる。
- ・アスパラガスの経済寿命は10年程度とされており、前年までの数年間の平均収量に比べて20～30%の減収となったら改植する。

○10aあたりの収益性（普通栽培）（アスパラガス定植3年目以降）

粗収益（円）	経営費（円）	所得（円）	所得率（%）
425,250※	255,424	169,826	39.9

※単収600kg、価格945円/kg、商品化率75%とした場合。

出展：主要作物の技術・経営指標 平成27年9月（青森県農林水産部発行）

○主な作業と10aあたりの労働時間（普通栽培）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1年目	主な作業	基肥・耕起 定植	除草		倒伏対策 病虫害防除		葉面散布		茎葉刈取り
	時間労働	5 32	4		2 2	2 2 2 2	2		3
3年目以降	主な作業	基肥・培土 除草	収穫・調整	病虫害防除	培土 追肥				茎葉刈取り
	時間労働	2 2	15 25 23	25 23 23	15 25	2 2 2 2	2		6

労働時間：主要作物の技術・経営指標 平成27年9月（青森県農林水産部発行）から引用

2 作 型

普通栽培	春どりのみを行い、収穫終了後は、立茎して株養成する方式。 5～6月に収穫が集中する。
立茎栽培	春どり後、適度な太さの若茎を数本生育させて葉を繁らせ、新たに萌芽してくる若芽（夏芽）を収穫する方法。 長期収穫ができるため、トータルの収量が多い。

3 主要品種

スーパーウェルカム	草勢が強く、収穫物のそろいが良い。 頭部の締まりが良く、アントシアンの発生は少ない。 茎葉や株の病害に強く、欠株や衰弱株の発生が少ない。
ゼンユウガリバー	全雄種で太物割合が高い多収品種。 茎葉が倒れにくく、折れにくい。 頭部の締まりが良く、立茎栽培にも適する。

4 本畑の条件

農薬飛散に注意！

アスパラガスの萌芽は例年4月下旬頃から始まるが、この頃からりんご園地ではスピードスプレーヤー（SS）による農薬散布が行われる。

そのため、ほ場がりんご園地に隣接している場合は、農薬散布のスケジュール等について生産者間で情報交換し、りんごの農薬散布前日の夕方からアスパラガスのうねをポリトンネルで被覆するなど、飛散防止対策を行う。

- ・ 農薬飛散の可能性があるため、りんご園地内には作付けしない。
- ・ 排水が良好で、日当たりのよい場所を選ぶ。
- ・ 水田転作では、耕盤破碎等の十分な排水対策を行う。

5 畑の準備

（1）定植前年（秋～冬）

- ・ 心土破碎等により透排水性を改善する。
- ・ 多年性雑草（スギナ、ヒルガオ、スミレ、スカシタゴボウなど）を除草剤処理及び地上部の刈取りで除草する。
- ・ 完熟堆肥を 10a 当たり 10t 以上施用する。

（2）定植年（春～うね立て前）

- ・ 土壌分析結果に基づき、土壌改良資材を散布する。
- ・ 肥料は、10aあたり成分量で窒素17kg、りん酸38kg、加里17kgを施用する。

（3）うね立て

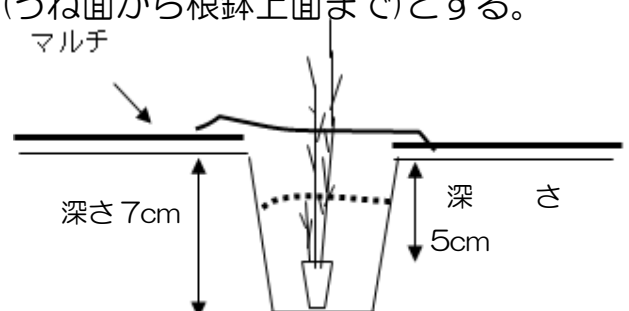
- ・ うねの高さは5～10cm程度とし、グリーンマルチ（フィルム幅95cm）を張る。



7 定植

- ・ 苗は 1,600 本／10a 程度用意する
- ・ 定植時期は5月中旬とする。
- ・ 定植後の活着を促すため、定植前に根鉢を液肥や水などに十分浸す。
- ・ 株間は 35cm、深さは約 5cm の深植え（うね面から根鉢上面まで）とする。
- ・ 定植後に植穴へかん水する。

- ① 深さ 7cm の植え穴に苗を置き、株元に 2cm ほど覆土する。
- ② 活着後、植え穴にさらに土をかぶせ、最終的に植付深 5cm とする。



8 定植後の管理

- ・雑草発生前にうね間に除草剤（土壌処理剤）を散布し、雑草の発生を抑え、その後も中耕や除草剤により対策する。
- ・倒伏防止対策として、15×15 cm四目のフラワーネットを設置し、茎葉の伸長とともに引き上げる。

9 越冬前の管理

- ・11 月頃になると茎葉が黄化するので、茎葉の緑色が抜け切ったら地際から刈り取り、ほ場外に持ち出して処分する。
- ・ネズミの侵入を防ぐため、茎葉処理後はマルチを除去する。

10-1 普通栽培の定植2年目以降

（1）萌芽前（消雪後）の施肥

- ・完熟堆肥を 10a 当たり 2 t 以上施用し、有機物を補給する。
- ・土壌分析結果に基づき、土壌改良資材を散布した後、中耕・培土する。
- ・肥料は、10a あたり成分量で窒素 15kg、りん酸 15kg、加里 15kg を施用する。

（2）収 穫

【定植2年目】

- ・生育が旺盛で茎径 10～15mm の萌芽がある場合は、間引き収穫をする。

【定植3年目以降】

- ・25cm 以上伸びたものを穂先が開く前に地際から収穫する。
- ・細い若茎が多くなる、茎頂部の開きや奇形が目立つなどの兆候が見られたら収穫を打ち切り、株養成を開始する。

年数別の収穫期間の目安

区 分	収穫期間
2年目	間引き収穫
3年目	20日
4年目	30～40日
5年目以降	60日



（3）追 肥

- ・収穫打ち切り直前を目安に、追肥として 10a あたり成分量で窒素 3kg、加里 3kg を施用する。その後、同量を 2 週間おきに 8 月中旬まで施用する。
- ・追肥後、中耕培土する。

（4）倒伏防止

- ・フラワーネットやマイカ線を利用して倒伏防止を図る。
- ・通気性や透光性を良くするため、ネット等にかからずに倒れる短い茎は随時除去する。

10-2 立茎栽培の定植2年目以降

(1) 萌芽前（消雪後）の施肥

- ・完熟堆肥を10a当たり2t以上施用し、有機物を補給する。
- ・土壌分析結果に基づき、土壌改良資材を散布した後、中耕・培土する。
- ・肥料は、10aあたり成分量で窒素15kg、りん酸15kg、加里15kgを施用する。

(2) 春収穫

- ・右表の収穫期間を参考に、25cm以上伸びたものを穂先が開く前に地際から収穫する。
- ・奇形や障害茎、細すぎるものは速やかに除去し、新芽の伸長を促す。
- ・細い若茎が多くなる、茎頂部の開きや奇形が目立つなどの兆候が見られたら収穫を打ち切り、直ちに立茎を開始する。

年数別の収穫期間の目安

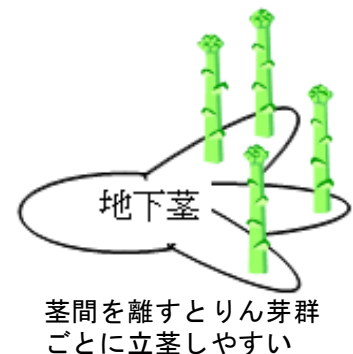
区 分	収穫期間
2年目	7～10日
3年目	15～20日
4年目以降	30日

(3) 追 肥

- ・収穫打ち切り直前を目安に、追肥として10aあたり成分量で窒素3kg、加里3kgを施用する。その後、同量を2週間おきに8月中旬まで施用する。
- ・追肥後、中耕培土する。

(4) 立茎の方法

- ・春収穫は遅くとも5月末で打ち切り、夏秋どりに向けた立茎を行う。
- ・太さが概ね直径1.0～1.5cm程度の若茎を茎間を10cm程度離して立茎する。
- ・立茎本数は、定植2年目：7～8本／株程度、定植3年目以降：5本／株程度である。



(5) 倒伏防止対策及び茎葉処理

- ・フラワーネットやマイカ線を利用して倒伏防止を図る。
- ・通気性や透光性を良くするため、ネット等にかからずに倒れる短い茎は随時除去する。

(6) 夏収穫

- ・立茎数を確保してから収穫を始める。
- ・春に比べて伸長が早いので、収穫遅れとならないように注意する。
- ・収穫は萌芽してくる限り継続して行い、萌芽が止まる頃に収穫を終了する。

11 病虫害防除

(1) 茎枯病・斑点病

- ・株養成（立茎）開始からの約1か月、立茎直後からギ葉が展開するまでの間を重点的に防除する。
- ・梅雨時期、秋雨期の降雨前に予防散布を行う。



茎枯病が進行した様子



斑点病の病斑

(2) アザミウマ類

- ・5～6月頃から発生し、高温・乾燥状態で発生が多くなる。
- ・発生初期の防除を徹底し、多発の場合は7日間隔で2回散布する（違う種類の殺虫剤をローテーション散布）。



アザミウマによる曲がりやしなび



普通栽培でのアザミウマ被害①



普通栽培でのアザミウマ被害②

(3) ジュウシホシクビナガハムシ

- ・気温が15℃以上になると、若茎のりん片や表皮を食害する。
- ・成虫は薬剤の効果が悪いため、幼虫の防除で、成虫の増加を抑制する。



成虫 (H26. 5. 15)



幼虫 (H26. 6. 5)